

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670102183		
法人名	有限会社 朝日ケア		
事業所名	あさひホーム		
所在地	富山市北代189		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりのリズムに合わせた入浴、どの方もトイレで排泄できるよう支援している。併設サービスの利用者との交流、ドライブ・散歩の外出等で社会とのつながりを保てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員が事業所で子供ピアノ教室を開催し演奏会に地域の方々を招いたり、小学生との定期的な交流会や地域行事への参加などで地域の人達との交流を図り、利用者が癒しのひと時を笑顔で過ごしている。職員研修に積極的に取り組み、移乗介助勉強会を月2回開催、外部研修へも参加し介護サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

あさひホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関にホームの運営理念を掲げ、毎日の朝礼で職員全員で唱和している。地域住民も含めた皆の笑顔をも物差しの一つとしてお年寄りの満足につなげられるよう理念に基づき取り組んでいる。	目標管理の中で各自が7つの習慣を掲げて理念を共有し、毎月達成状況を確認し反省の機会として捉え、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な小学生来所の交流会、地域の住民運動会への参加、地区住民文化展への出品、地区祭りの獅子舞の来訪など色々な交流を図っている。近所の方が庭や畑の手入れに来られ、利用者の希望にも応えてくださっている。	利用者の笑顔が絶えない小学生との定期的な交流会、中学生の14歳の挑戦受入れ、地域の運動会、文化展への参加等を通して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来所された方との話の中で認知症の特徴などお伝えすることがある。また研修会や運営推進会議の場で周知を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自治会・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者ご家族等の方々に参加して頂き、事業所の取り組みや近況を報告すると共に、地域の実情や事業所に期待する提案等色々な意見や情報を頂き、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	市の介護相談員・地域包括支援センター・自治会・民生委員・家族の参加を得て開催し、事業所からの定期的な報告や参加者からの情報収集と意見を頂いて、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度富山市介護保険課の介護相談員が来訪され、利用者の方々の生活状況を知って頂きながら、情報交換したりアドバイスを頂いている。	市の介護相談員との情報交換を通して協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	職員同士声を掛け合い、ホーム内を自由に行き来して頂ける。玄関扉の施錠はせず開けると音楽が流れるようになっており、利用者の動きの見守りを行っている。	社内研修会や日頃の情報共有の中で拘束について理解し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は日中施錠しないので、職員がお互いに注意し、安全に過ごせるよう対応している。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待防止等の研修に参加したり、日頃から職員同士話し合い、事業所内での虐待がないよう注意を払い、防止に努めている。			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	外部研修会への参加を行っている。成年後見制度に関しては、学ぶ機会を設けることが少なく、できていない。			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学に来られた際や契約時にお話を伺いながら説明させていただいている。改定時は書面と面会時にご理解いただけるように努めている。			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族面会時や運営推進会議の際に利用者の近況をお伝えし、意見や要望をお聞きできるようにしている。グループホーム玄関には意見箱を置いている。	家族の面会も多く、面会時に意見・要望を聞いている。「家族アンケート」については職員との話し合いで終えている。	家族アンケートの結果について、内容等についての改善方法も含めて家族に知らせるとともに、運営推進会議でも報告し、運営に反映させる取り組みが期待される。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングに介護部長も出席し、職員から出された意見や提案を運営に反映させている。	毎月のミーティングで、職員から意見・提案を聞いている。利用者に対する介護の方法とか営繕的な意見等を取り込み、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の面談で職員一人一人と話をする機会を設け、要望や意見・疑問などを聞き、職場環境の整備・向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望やそれぞれの力量に応じた職場内外の研修会に参加を促し、得た情報を他の職員とも共有しながら実際の業務に活かしていくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県グループホーム協議会が主催する研修会へ積極的に参加し、交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から相談員と共に本人に直接お会いしお話を聞く機会を設けさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの入居に関する相談の際、困っていることや不安なことについて、よくお聞きできるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望をお聞きし必要な情報をお伝えするよう努めている。すぐにグループホーム入居ではなくデイやショートの利用により徐々にホームに慣れていただくような段階を踏むこともできる。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や得意なことを活かし利用者皆様と職員で協力しながら共に行っている。昼食作りの下ごしらえ・盛り付け、洗濯物をたたむ、モップ掛けなどできる範囲で一緒に行ってもらっている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な連絡をこまめに行い、面会の際に日々の出来事や心身状態の報告を行っている。ご家族より昔のことや本人に対する思いもお聞きできることもあり、日々のケアに活かしていくよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や友人との外出が続けられるよう身体状態について主治医の助言やご家族の理解・協力を得ながら、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	馴染みの理髪店や図書館に出掛けたり、友人・知人の面会時はさりげなく見守りして、馴染みの関係が途切れないように支援してる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し、その時々状況に応じて座席の位置など交流がはかれるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も時折、ご家族の了解を得て本人に会いに行ったり、近況をお聞きしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出希望のある利用者とドライブを行っている。自ら思いを表せない方でも日頃より関わりの機会を多く持ち、仕草や表情から思いや希望を汲み取り把握できるよう努めている。	気持ちを言葉にできない利用者には表情や行動から受け止めるように接している。不安な行動パターンになった時は、音楽をかけたり作業をすすめると安心の表情になり落ち着かれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からお聞きしたり、本人との関りや会話により生活歴や馴染みの暮らし方などを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながら日常生活の中でそれぞれのできる事・得意な事を行って頂き、心身の状態に合わせその時々合った過ごし方ができるよう、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人やご家族の意見をよく聞き、日々の暮らしの中でできる事や楽しみを発揮できるよう、また心身状態や生活の中での課題についてミーティング等で話し合っている。それらをもとに現状に即した介護計画の作成に努めている。	本人・家族の要望は言葉をそのまま表記する事で身近な計画になっている。担当者がミーティングで出された意見をまとめて評価している。通常は半年に一度の見直しであるが、状態の変化等で必要があれば計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や体調の変化など個別記録に記入している。職員間の情報共有に努め、話し合いを持ちながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスやショートステイの年間行事、イベント、ドライブへの参加などを通じて、他の利用者・職員と交流し楽しみを増やせるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケ同好会や歌の会、マジック等色々なボランティアの方々が来所され楽しまれている。理髪店の出張サービス・薬局からのハンドマッサージ・近くのスーパーに食材配達等を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族と共に本人の以前からのかかりつけ医への受診・相談を行っている。本人や家族の状況により必要に応じ家族と相談し要望をお聞きしながら、受診から往診への変更も支援している。	希望を確認し家族と一緒に受診から協力医の往診に変更している。体調や状態の変化を考慮し医師と家族の連携が取れるように看護師も関わり支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日同一の時間に体温や血圧等のバイタル測定を行いその日の状態の目安にしている。いつもと違うと感じた時は看護職員に報告し対処している。必要に応じてご家族や主治医に相談し適切な対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は家族と医療機関に委ねる事になるが、状態の把握の為、家族や医療機関、看護師と連携し情報交換を行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせ、家族・職員・看護師が十分に話し合いをしながら、主治医など医療機関との情報交換をこまめに行いながら対応し、本人・家族の希望に添えるよう支援に努めている。	重度化が進んでいく中で症状が変化した時はかかりつけ医から家族に病状説明を行っている。事業所の看護師も加わり今後についての話し合いを行ない、家族の心配や不安な事を気軽に相談できる体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による定期的な社内勉強会や、定期的ではないが消防署の協力を得て緊急時の対応やAEDの使い方等の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て日中・夜間想定での避難訓練・避難経路の確認を行っている。マニュアルを作成し、利用者と共に避難訓練を行っている。	法人内の隣接事業所と合同で訓練を行っている。消防署員の協力で出火場所の異なる想定で、日中・夜間の避難経路の確認や避難方法の助言を受けている。地元の浸水等の災害対策も地域・行政と共に情報共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や心身状態をふまえながら利用者の立場に立って考えるようにし、その時々合った言葉掛けや対応ができるようにしている。	1日の生活の中では職員と利用者が接する時間も長く、言葉遣いも慣れ合いの関係になりがちである。職員同士で注意し合ったりミーティングで意識付けするなど継続しての取り組みが必要と感じている。	人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応、意識付け等について、職員全員で話し合い検討されることが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の声や表情・行動をよく見聞きし自己決定できるよう促している。言葉で表すことができない方に対しても、常に声掛けしできるだけ思いや希望を汲み取れるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声掛けを行い、その時々気分や体調により、無理強いせず、それぞれのペースを大切にしながら希望に沿って生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性職員が入浴後、普段あまり着ておられないスカート、スカーフ等普段にはないオシャレを提案している。概ね2か月に一度、出張理髪店へ依頼し整髪支援している。行きつけの理容店のある方はご家族と共に掛付けられている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを活かし、食材切り等の下ごしらえ・味見・盛付け等職員と共に行っている。厨房へ食事を取りに行ったり返却したりすることは利用者の方の役割となっている。	利用者と一緒に献立を考えて食事の手順を教わったり盛付けをするなど、キッチンを中心に食事に関わる事で生活感を増している。誕生会のおやつや畑での野菜作り、外食など楽しみを感じる事ができるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をその都度記録し把握に努めている。それぞれの方の好き嫌いについても把握に努め工夫しながらバランスの良い食事提供ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣的に声掛けしできることを活かしながら一人ひとりに合った口腔ケアに努めている。必要に応じ入れ歯洗浄剤や口腔ケアスポンジ等のケア用品を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせてトイレでの排泄の支援に努めている。排泄チェック表の記入により日々の排泄状況を知り適切な排泄ができるようその都度声掛けし排泄支援を行っている。	個別記録で排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせた支援に努めている。トイレ介助は利用者個々に合わせた安全な移乗介助ができるように毎月勉強会を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記入により毎日の排泄状況を把握し、食事の工夫やこまめな水分補給・適度な運動や歩行を促すことにより便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できる。前日入っていない方などあらかじめ入浴予定者は決めているが、本人に聞きながらその時の気分や体調に合わせて入浴できるよう柔軟に対応している。	気持ちよく入浴できるよう拒否があっても声かけを工夫して、ゆったりできる雰囲気を作っている。重度化が進んでも安全に浴槽に入る事ができる移乗介助を毎月の勉強会で習得している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りによって日中の活動及び夜間の様子や睡眠状態を把握し、職員間で情報共有しながら、一人ひとりに合った休息の時間がとれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員管理にて間違いのないようダブルチェックなど工夫・確認しながらの服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事やできる事を活かし昼食作りや洗濯物たたみ等の作業、居室のモップ掛け等気分や体調に合わせ職員と一緒にしている。自分しかできない役割ができている方もおられ、力を発揮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は利用者の希望を聞きドライブに行き季節を感じていただいている。個人的に家族や友人との外出を楽しまれている方もおられる。が、入居者の身体状況により、以前に比べ外出の機会が減ってきた。	家族や友人と図書館や自宅への外出を楽しんだり、デイサービスの利用者と一緒にドライブ参加するなど、その方に応じた外出を支援している。長時間の外出でなくてもデッキでの気分転換や近所への散歩等できるだけ出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な買い物は家族に対応して頂いている。買い物の際におやつ等商品を選んでいただくことはあるが、支払いを自分ですするという機会はなくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族からの贈り物が届いた時、本人自らお礼の電話ををして頂くと共に近況をご家族に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや玄関に季節の花を飾ったり、利用者の好む音楽やリラックスできる音楽を状況に合わせてかけている。気温や天候を見てデッキに出てランチタイムを過ごすなど季節を感じられる取り組みをしている。また利用者と共に掃除を行いながら環境整備に取り組んでいる。	五感を刺激する事ができるように、花を飾ったり音楽を流し明るい日差しを受けて日課の体操をするなど、リビングで心地よく過ごせるようにしている。共用して使う場所を職員と一緒に掃除しきれいにするなど声かけして行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下所々に大きさの違うソファを置いており、一休みしたり、気の合う方同士で寛ぎ話したり、一人で静かに寛いだりされているなど思い思いに日々を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具を持参して頂き、一人ひとりの思いや身体状態に応じて本人・家族と相談しながら配置を換えたりしている。それぞれ生活感のある居心地のよい空間を作っておられる。	落ち着ける場所となるように、家具や身の回りの品を家族と一緒に選び運んでいる。家族写真や使い慣れて大切にしてきた品を身近に置いて自宅と同じように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの方の必要に応じ、部屋の表札やトイレの表記を利用者の目線に合わせて分かるよう工夫をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 あさひホーム

作成日 平成 27 年 12月21日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	なれ合いの言葉遣いになりがちである。	人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができる。	職員全員で、ご利用者様一人ひとりについての適切な言葉かけについて話し合い。職員同士で注意し合う。ミーティングで繰り返し取り組み意識付けを図る。	1年間
2	10	家族アンケートの結果について、内容等についての改善方法も含めて家族に知らせるとともに、運営推進会議でも報告し、運営に反映される必要がある。	ご家族にアンケートの結果と改善点について、説明し、運営推進会議で報告する。	ミーティングで家族アンケートの結果について話し合い改善方法を検討し、実行、状況をご家族に電話や面会時に書面で説明する。結果を運営推進会議で報告する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。